竹島の日本地図についての韓国側の報道・論文に対する反論 (7)

—2015 年 7 月 17 日付韓国・中央日報報道の地図について (4)—

舩杉 力修
（島根大学准教授）

1　はじめに
2　1937 年陸地測量部「地図区域一覧図」について（5 巻 1 号）
3　1956 年地理調査所「地図一覧図」について（5 巻 2 号）
4　1802 年林子平「大三国之図」について
（1）韓国側の主張
（2）絵図の記載内容（6 巻 2 号）
（3）幕末における林子平の地図
5　おわりに（以上、本号）

4　1802 年林子平「大三国之図」について

（3）幕末における林子平の地図

韓国・中央日報が取り上げた、1802 年「大三国之図」については、すでに前稿までに結論は出ている。すなわち、①1802 年「大三国之図」は、林子平が作製した証拠はなく、林子平の死後、別人が林子平の地図『三国通覧図説』附図をもとに、赤水日本図第 2 版も参考にして、加筆修正したものであること。②1802 年「大三国之図」において、竹島のすぐ東側に記された島がたとえ当時の松島（現在の竹島）であったとしても、それは一個人である林子平の地理的認識を反映したもの、いわゆる「私的地図」であるので、竹島の領有権紛争に証拠として使用することはできないこと。③1802 年「大三国之図」のもとになった林子平の地図は、幕府から「地理相違之絵図」として絶板処分を受けており、幕府の認め

ていない地図であることからも、竹島問題では証拠とならないことなどを指摘した。

しかしながら、林子平の地図についてこちらから何度も反論を出しても、韓国側から明確な反論が出ることのないまま、韓国側から継続して竹島の領有権の根拠の一つとして取り上げられていることから、本稿では、補論として、さらに関係する、江戸時代後期の地図を取り上げて、江戸時代における林子平の地図の位置づけについて検討することとしたい。

なお、古地図研究の観点からすると、江戸時代中後期には相次いで国内外の古地図が出版された。こうした相次ぐ地図の出版により、特に民間において、国内外の地理的認識が浸透したと考えられる。しかしながら、従来の研究では、赤水日本図も含めて、江戸時代中後期の古地図については、古地図の解説書や、博物館の図録等に概括的な解説がある程度で、地名や航路など古地図の記載内容といった基礎的な分析はまだ少ないのが現状である。最近では、書誌学的な観点から赤水日本図について分析した、東京大学の馬場章教授が、常陸国を事例として、赤水の日本図のうち初版から第５版までと、模倣図など関連地図に記載される地名を分析した成果[1]が注目されるが、こうした基礎的な分析はほとんど行われていないといえる。また、絶板、発売禁止となったため、江戸時代後期に多くの写本が作られた林子平の地図も、写本が作られるほど、江戸時代後期の社会に大きな影響を与えたにもかかわらず、地名など地図の記載内容についてほとんど分析されていない。これらの地図の記載内容の検討は、地理的認識が国内外にどのように浸透していくのかという点で、地理学的に重要な課題の一つであるといえる。

また、前稿までですでに明らかにしたように、竹島問題においても、現在の竹島にあたる当時の松島が江戸時代中後期の日本図に記載されていることから、日韓双方とも江戸時代中後期の日本図が取り上げられているが、単に竹島が地図に記載されているかどうかとか、色がどうなっているかなど表面的な分析にとどまっているのが現状である。

1　馬場 章「地図の書誌学―長久保赤水『改正日本輿地路程全図』の場合、黒田日出夫ほか編『地図と絵図の政治文化史』東京大学出版会、2001 年、383-398 頁。

そこで、本稿では、赤水日本図の模倣版や林子平の地図など、江戸時代後期の日本図を取り上げ、地名や航路など記載内容の分析といった基礎的な分析を行った上で、竹島問題との関係を検討することとしたい。

a.　常陸国土浦の地理学者沼尻墨僊の筆写図について

林子平の「三国通覧輿地路程全図」や 1802 年の「大三国之図」の位置づけについて検討できる古地図として、常陸国土浦の町人である沼尻（ぬまじり）墨僊（ぼくせん）（1775 ～ 1856）の筆写図が挙げられる。沼尻墨僊は、墨僊の製作した地球儀について研究論文のある、宇都宮陽二朗三重大学教授によると[2]、「土浦町人、教育者、天文・地理研究家。地理について赤水と才助の影響をうける。赤水、才助および高橋景保、高橋観巣らの地図の模写が多い。一八〇〇年に『地球万国図説』を著す。これは『万国全図円機』と『地球万国図説』からなる。前者はいわゆる『傘式地球儀』であり、折り畳みできる。地球儀は一八〇〇年に完成していた。大久保要（土浦藩士）の忠告により秘蔵していたが、一八五五年に至り公表した。その後、依頼により各藩、地方に出荷したといわれる」とある。なお、才助とは土浦藩士で、地理学者の山村才助を指す。

墨僊の地図の模写については、南波松太郎東京大学教授とともに、わが国の代表的な地図学者であり、古地図収集家でもあった秋岡武次郎法政大学教授が次のように記している[3]。「墨僊が赤水の世界図、日本図、大清廣輿図、景保の世界図大小二種、本朝往古沿革図説等、其の当時に出版された地図類を模写している＜林子平の三国通覧図説附属の三国通覧輿地路程全図等五図を写してゐることも筆者が中條家[4]を訪れた節見られた＞ことが右の略伝中に記されてゐるが、此等現在の筆者も所持してゐる、当時一般に鬻がれた版図を彼が態々筆写してゐることは奇異に感ずるが、是れ当時の如き交通の頻繁でなかつた時代では土浦の如き江戸に近き処、此等の図の出版当時とはさう年を隔てなかつた墨僊の時代

2　宇都宮陽二朗「江戸時代地理学史研究への新たな視点」、地理 36 巻 6 号、1991 年、71 頁。
3　秋岡武次郎「沼尻墨僊の地球儀幷に地球儀用地図（上）―湯若望著渾天儀説中の地球儀用地図の我国への渡来―」、歴史地理第 60 巻第 5 号、1932 年、428 頁。
4　秋岡教授によると、「墨僊の家は今尚土浦に在り、現当主中條勝雄氏宅には墨僊の遺書、遺物等が多数蔵されてゐる」とする。前掲（3）秋岡論文、427 頁。

でも、容易に此等が入手し得られず、彼が止むを得ず原物を借りて筆書したものと考へられる。此の文化の伝播の遅きことも当時の一の注意すべき現象であらう。実際墨僊は入手し得られなかつた地図は借りて手書したが、購ひ得る図は出来るだけやはり之を求めたものと見え」とし、墨僊が地図類を模写した背景を説明している。続けて秋岡教授は[5]、「墨僊は多数の地図、又は書物を筆録してゐるが、此等は多くは自己の攻究のために先人の図書を筆写したものか又は筐底に蔵して世に出さなかつた彼の地理又は天文学上の草稿」とし、墨僊が多数の地図類を筆写した理由を説明している。

また、宇都宮教授も墨僊筆写図について[6]、「墨僊は、「蝸蘭新訳地球全図」、「新製輿地全図」、「銅版万国輿地方図」、「校訂輿地方円地」、「新訂坤輿略全図」、「唐土歴代州郡沿革地図」、「大明都城図」、「清二京十八省輿地全図」、「伊豆七島全図」等の地図を収集し、「訂正増訳采覧異言」、「蝸蘭新訳地球全図説」、「坤輿図識」、「地球万国山海輿地全図説」、「訂正増訳采覧異言世界図」、高橋景保の「新鑑総界全図 <1809>」、「新訂万国全図 <1807>」（1832 筆写）、「大清広輿図 <1821>」（1821 筆写）、「本朝往古沿革図説 <1832>」（1832 筆写）などを筆写したとされている。墨僊資料の組織的、包括的な調査が実施されていないため、魁集地図と模写図の未区別、散逸とその後の再整備のため、墨僊固有の地図情報の吟味は充分でない」としている。

そうしたなか、2009 年土浦市立博物館において、特別展「沼尻墨僊―城下町の教育者」が開催された。特別展では、墨僊の筆写図の一部が展示され、図録では、その写真と解説が掲載されている。墨僊の筆写図は個人蔵で、現在土浦市立博物館寄託となっているが、この図録の刊行によって、墨僊の研究者以外の研究者も墨僊の筆写図について容易にアクセスすることができるようになった[7]。この図録をもとに、墨僊の筆写図、作製図の一覧を作成した【表 1】。秋岡教授が「林子平の三国通覧図説附属の三国通覧輿地路程全図等五図を写してゐることも筆者が中條家を訪れた節見られた」と指摘した、林子平の著作も【表 1】で確認できる。林子平関連では、『三国通覧図説』付図５枚のほか、同じく絶板、発売禁止となった『海国兵談』も入っている。残念ながら筆写年は不明であるが、筆写した一理由として、『三国通覧図説』付図が多く筆写されたように、絶板となり、当時入手不可であったことが考えられる。

さて、本稿と関係している地図は、107 番の「日本辺海接壌図」で、林子平作製の「三国通覧輿地路程全図」の筆写図である。図録の解説に

5　前掲（3）秋岡論文、428 頁。
6　宇都宮陽二朗「沼尻墨僊作製の地球儀上の世界図」、地学雑誌 101 巻２号、1992 年、122-123 頁。
7　土浦市立博物館編『第三〇回特別展 沼尻墨僊―城下町の教育者』、土浦市立博物館、2009 年。

表１　沼尻墨僊の地理関係の資料の一覧

番号	表題	作成者	筆写者	刊行年	筆写年	備考
83	地球万国図説	沼尻墨僊	–	–	–	寛政 12（1800）成立
84	新訂坤輿略全図	新発田収蔵	–	嘉永５（1852）	–	
99	新訂万国輿地全図	高橋景保	沼尻墨僊写	文化７（1810）	天保３（1832）	
100	喝蘭新訳地球全図説	橋本直政	沼尻墨僊写	寛政８（1796）	寛政８（1796）	「喝蘭新訳地球全図」の解説部分の筆写
101	海国兵談	林子平	沼尻墨僊写	寛政３（1791）	–	
102	新刻日本輿地路程全図	長久保赤水	沼尻墨僊写	–	–	第２版（寛政３（1791））以降
103	大清広輿図	長久保赤水	沼尻墨僊写	天明５（1785）	文政４（1821）	
104	改正東海舟程全図	君島謙	沼尻墨僊写	天保 11（1840）	弘化４（1847）	
105	蝦夷図	林子平	沼尻墨僊写	天明６（1786）	–	
106	朝鮮図	林子平	沼尻墨僊写	天明６（1786）	–	「仙台林先生製図」とあり
107	日本辺海接壌図	林子平	沼尻墨僊写	天明６（1786）	–	
108	琉球三省三十六島全図并台湾三県図	林子平	沼尻墨僊写	天明６（1786）	–	「仙台林先生製図」とあり
109	無人島図（小笠原島）	林子平	沼尻墨僊写	天明６（1786）	–	
110	訂正増訳采覧異言・五大州分図	山村才助	沼尻墨僊写	–	–	
117	万世泰平図説	立原翠軒	沼尻墨僊写	文化 12（1815）	天保３（1832）	

注）番号は特別展での展示番号。
土浦市立博物館編『沼尻墨僊：城下町の教育者』、土浦市立博物館をもとに加筆修正した。